

2008年10月7日

会員・関係者 各位

特定非営利活動法人 KHJ 香川県オリーブの会
連絡先 TEL・FAX 087-843-9877 (川井)
ホームページ http://www7a.biglobe.ne.jp/~khj_olive/

銀杏が黄色に、ハゼの葉も赤く変身しはじめています。あの暑さから1ヶ月ですがやはり季節は巡ってきました。

下記の通り10月の月例会を開催いたしますのでご案内申し上げます。

第76回月例会ご案内

- 1) 日 時 10月26日(日)
13:00~13:30 受付
13:30~13:40 理事長から報告・連絡
13:40~15:20 「ひきこもりの当事者と家族の心理と援助」
講演と質疑応答
香川大学教育学部准教授・臨床心理士
竹森 元彦氏
15:30~16:30 グループ別話し合い、情報交換
- 2) 場 所 香川県社会福祉総合センター 6階 研修室
TEL 087-835-3334 県庁の斜め向い
- 3) 参加費 1家族 1,000円

年会費納入いただき有難うございました。

(未納の方につきましては、郵便振替払込票を同封させていただきました。また、案内状のみ希望の方も納入いただきますよう、お願い申し上げます。)

【今後の月例会】

- 11月23日(日・祝) 香川県社会福祉総合センター 13:30~16:30
12月21日(日) 同 上

【ポレポレ農園】

9月23日、27日、28日 理事長他会員有志が若者と一緒に農園の草抜きを手伝いました。若者たちは白菜やブロッコリー等、各種秋冬野菜の苗の植え付け作業なども頑張っていました。

ポレポレ農園を見学したい方、野菜の購入や作業等、わずかな時間でもお手伝いを頂ける方(ボランティア)は松田先生(携帯電話 090-8695-0904)までご連絡下さい。

【若者の集い】

9月21日(日)オリーブの会の例会に、杉本さんを含め5名が参加しました。杉本さんの活動についてのお話の後、若者たちだけで新しくオープンした綾川町のイオンへ出かけ、お茶とウィンドウ shopping を楽しみました。若者の集いも月に2~3回開催しようという意見や、会の名前を付けようと、オリーブに対比してポパイの案が出ています。

また、集いのチラシも若者たち自身でこれから作っていく予定です。気楽な集いなのでお茶だけに来ていただいても結構です。一度参加してみませんか？

【居場所活動予定】

10月4日(土)	運営委員会	(13:30~16:00)
10月11日(土)	松田先生 個人カウンセリング	(9:30~14:00)
10月18日(土)	若者の集い	(13:30~16:00)

【おしらせ】

助成金決定

- ・去る7月16日(水)堀井理事の尽力で四国労金社会貢献活動「助成金」申請書を提出していましたが、10月2日(木)2008年度後期助成金目録贈呈式が本店で行われました。(20万円)
- 12月21日(日)開催予定の、ひきこもりの若者の交流会及び2月の講演会に役立てる予定。

四国ブロック会議 10月12日(日) 13:30~(場所 高知やいろ鳥の会居場所(いの町))

- ・「ひきこもり地域支援センター(仮称)(新規事業)」設置について
(各県の動きと各県に提示した親の会の要望・意見など)
- ・署名活動について 他

「全国引きこもり家族会~支援者代表交流会・研修会~広島大会」(第4回全代研広島大会)
平成20年11月29(土)~30日(日)会場:広島県健康福祉センター大研修室
(主催:KHJ 広島県もみじの会 共催:全国引きこもり KHJ 親の会)

- ・大会テーマ:「引きこもりへの国の総合施策に向けて」

副題:「医療的援助システム、そして福祉への官民協働を」

詳細は旅立ち46号をご覧ください。

講演会・シンポジウムなど

「勝ち負けを超えた希望社会のあり方を考える」10月12日(日)(場所 京都大谷婦人会館)

- ・シンポジスト(予定) 芹沢 俊介・若者他 ISIS ネットワーク情報誌 Global Ships より

「1万余件の実体験を通して学ぶ」11月9日(日)(場所 山口県教育会館3F)

不登校・引きこもり講演会 子から親へのメッセージ

- ・講師:さが若者サポートステーション代表 谷口 仁史さん 主催//KHJ 山口県「きらら会」

【前回の月例会より】

「さぬき若者サポートステーションについて」

塚本修 理事長のお話 NPO法人さぬき自立支援ネットワーク (概略)

実質的な運営は鷺見氏に任せ、私は全体の方向付けとアドバイスをしている。県議を退職し恩返しのつもりでNPO法人さぬき自立支援ネットワークを起ち上げた。子供も高校時代いじめから不登校になったが、担任や親の力で元気になった。親だからできること、親でないとできないことがある。皆さんも勇気を持って取り組んでほしい。中、西讃を拠点にして各企業ともネットワークを組み、最初から最後まで共に進もうと考えている。

鷺見典彦 所長のお話 さぬきサポートステーション (概略)

さぬきサポートステーションに取り組むバックボーンとしては身内(弟)でも体験があったこと。現在就職し結婚もしているが、高校を出て就職後14~15年ひきこもった。父親の死亡がきっかけで出るようになった。私はパソコンの会社を経営し公共職業訓練を行っている。企業開拓のノウハウと企業とのネットワークを活用し、弟のように働きたいが働けない人を誘導して、仕事に就かせられないかと考えたことがひとつのきっかけ。

また小豆島の高校でキャリアカウンセリングと授業を持っている。何のために働くのか、働く目的は何かを教えている。それらのノウハウがこのサポートステーションで活用できないか考えた。

さぬき若者サポートステーションの紹介

概要

- ・ 開 所 2008年6月14日(厚生労働省の委託事業として県の推薦を受け実施)
- ・ 実施団体名 NPO法人さぬき自立支援ネットワーク
理事長：塚本修
- ・ 開所日・時間 月曜～土曜 10:00～18:00
- ・ 場 所 丸亀市浜町10-1 パソコン総合サポートeドーム 1階
(JR丸亀駅南側出口 富屋町商店街入り口)
TEL:0877-58-1080 FAX:0877-58-0070
- ・ 施 設 ロビー、研修室(パソコンルーム 意欲のある人は無料で研修可能)
相談室、談話室
- ・ 支援体制 常勤 キャリア・コンサルタント2名(うち1名、ジョブカード講習終了者)
カウンセラー・就職相談員 1名、事務員1名 計4名
非常勤 キャリア・コンサルタント1名
心療内科医1名

サポートステーションの役割

- ・ 地域ネットワーク構築
支援を必要とする若者の所在の把握 サポステへ誘導 学校や児童相談所、地域の企業も含めた各種支援機関と連携して支援するネットワークを作る。
- ・ 相談支援業務
常駐するキャリアコンサルタントによる個別相談、臨床心理士による心理カウンセリング。

・ 職業意識の啓発 職場見学 職業訓練の実施

一人一人に合った職業意識啓発セミナーの実施。

職業訓練までいけば8割の就労は可能。しかし就労しても戻る場合があるので、就職しても継続的にサポステに来てもらい、カウンセリングをしながら支援を続けていく。

利用状況

利用者 43名 相談 254回 出張相談 2回 セミナー15回 企業見学 2回 進路決定 8名
(うち就職 5名) 他省略

年齢 15歳～39歳(25歳までが半数 詳細省略)

学歴 中学卒業～大学卒業 (詳細省略)

社会人になってからの学力不足があるため学び直しを始めている。主に国語力のアップを図る。新聞を読み要約する。他に計算や一般常識などを学ぶ。

サポートステーションの成果

就職決定 5名 職業訓練 4名 ジョブカード作成 13名 企業見学(職場体験)9名

ジョブカードとは 履歴書や職業経歴書にお墨付きをつけたもの。本人が書くが、有資格キャリアコンサルタントが面談をして本人の今までの道のりと、今後どうしたいのかをひも解く。それをもとに必要な訓練を明確にして訓練へとつなげる。会社に一旦採用してもらい、3ヶ月～6ヶ月働きながら職業体験を積む。その後就職するか訓練を続けるか決める。

カウンセリングのステップ

ラポールの構築(入念な信頼関係作り) 本人がどこへ向って行きたいのか目標の確認

自分自身の確認 目標とのギャップの確認 メンタル系支援プログラム コミュニケーション系支援プログラム ジョブトレーニング、ジョブカードの作成 目標

今後の計画

- ・ その人に合った支援プログラムの作成(例 新聞を読もう、茶道、自立塾と共同の合宿他)
- ・ 毎月の企業見学会の実施
- ・ ジョブカードを作成した実習訓練の参加 サポステ以後をハローワークに任せきりにせずジョブカードを作成して出口を作っている。これが他のサポステとの相違点だ。
- ・ カウンセラーと保護者の相談会の実施
- ・ 地域ネットワークの構築 地域を巻き込んで若者を支援してゆく。サポステの制度があるうちに(数年?)ネットワークを作る。

質疑応答

Q：出席者 A：鷲見氏

Q：弟さん出られたきっかけは？ 又引きこもり期間が14年～15年と聞いたが神経症の症状は？

A：父が亡くなってやむを得ず出た。神経症の症状は多少あったが病院に行くほどではなかった。

サポステでも手ばかり洗って緊張して何回もトイレに行く人がいたが、カウンセリングを重ね、本人のできることを褒め自信をつけていった。大きく変わったのはスーツを着てネクタイを締めて企業見学会へ行ってから。カウンセリングもある段階まできたら連れて行く。その中で本人は出来るかもしれないと気持ちを切り替えるようだ。

他のサポステで3年間セミナーを受け続けてから来た人がいたが暗い顔をしていた。3年間考え続けたことは無駄ではない。これからはその考えたことを試そうと提案し、自立塾へ1泊2日の合宿に行った。今は笑顔が出て別人のようだ。一歩出て考え一緒に冒険することも大切だ。3年

間悩んだことで今がある。過去は肯定してよい。

Q：弟さんの出るきっかけ（方法）は？

A：パソコンができたので派遣の仕事を探したようだ。ブランクのある若者は出て働くことも大変。ジョブカードを作成し、職業訓練と企業実習をして雇ってもらおう。ある若者は父親の定年退職で収入が絶たれたため出られた。守られているときっかけがつかみにくい。

Q：保護者だけの相談もできるか？

A：保護者だけでもよい。無料で相談できる。（電話連絡必要）

Q：数字に上がっていない人はどうなっているのか？

A：就職した人は初めから手を差し伸べれば仕事に就ける人。残っている人はまだ迷っている。働かなければいけないが、まだ働かなくてもよいかなと思っている。保護者の人はサポステの情報を本人に伝えて欲しい。保護者が本人をサポステにつなげる役目をして欲しい。

企業見学会は一般の人も見学可能です。10月2日は終了。11月、12月もあります。希望者は川井理事長まで連絡をお願いします。

「私の活動（徳島、香川）から」（概略）

体験者 杉本英子さん

2ヶ月に一度徳島当事者の会の会報「こもりのち晴れ」を出している。名前は皆で決めた。親の会の「つばめの会」の会報も手伝っている。謝礼として一人千円いただいている。手伝い始めたのは3年前。親の会に参加していた当事者は私一人だったので前会長の岡本さんから頼まれた。

1年目は会員のお坊さんに協力していただき、毎月お寺で当事者が集まって昼食を作って食べ、話をした。皆緊張していたが、よく話をするお坊さんに助けられた。

ホームページ作りは岡本さんの息子さんがパソコンに詳しいので岡本さんの会社で作り始めた。

2年目は外出が増えた。ネットカフェ、ファミレス、花火、カラオケ、夜の動物園にも行き、ポレポレ農園にも手伝いに行った。親の会のサポートがあり、共に活動することで続けることができた。当事者の会を続けていくには親とのコミュニケーションが大事と思い、親の会には引き続き参加した。

3年目には20代の人仕事に行くようになった。うまくいかないときもあるが少し休憩してからチャレンジするようにしている。30代の人以前より話すようになりマイペースでやっている。今は人数が減ったこともあり、集まる回数は以前より少なくなっている。

自分なりにやってきたが反省点も多々ある。今後の課題は30代の人々の就労問題。今現在私を含め個々で医師やカウンセラーと相談して取り組む状態が続いている。

当事者の会の良いところは気持ちを共感できる仲間ができること。一人ではないと知ることは大切だ。共に話したり一緒に出かけることで今までできなかった体験ができ自信にもつながる。

私のすることが減ってきたころ徳島と香川で訪問の話をいただいた。香川に訪問して保健所が30歳までしか受け入れないと聞き、行く所がないことを知った。川井理事長の誘いを受け、毎月若者の集いに参加させてもらっている。現在3名の参加がある。今後名前を決めチラシ作りができたらと思っている。ぜひ香川の皆さんが中心になって作ってもらいたい。当事者からは月に2~3回に若者の集いを増やして欲しいと要望が出ている。

次にフリースクールについて話したい。

NPO法人フリースクール阿波風月庵でスタッフ助手として週に2回手伝いに行っている。**訪問サポート士養成講座終了のあとさらに勉強したくなり、フリースクールの会員となった。**20代の男性が中心だが、30代40代の女性もいる。代表の家庭訪問を受けて出られるようになると、週2回のビギナークラスでスポーツやテレビゲームなどを行っている。その後毎日通うクラスとなり、**料理、体操、陶芸、心理学の勉強などをする。NPO法人の会計も当事者で行う。月刊「風を集めて」も当事者で作る。**又カラオケ、満月会、食事会などもありお酒を飲むこともある。

職業体験も少し行う。電気製品の修理の手伝い、農産物の袋詰めやシール張りもある。**緊張していた若者がカウンセリングを受け、仲間と話し合うことで新しい発見や気付きがあり、自分自身と向き合い成長していく姿を見ることは嬉しいことだ。**

私は生徒の皆さんと同じことをしながら話を聞いたり、会計や日誌をつけている。フリースクールでは少しずつ参加の機会を増やして、最終的には責任を持たされるようになる。3年ぐらいで卒業することが目安となるので、それに合わせてスケジュールが組まれることになる。卒業した人も時々訪れ、経験を聞かせてくれて勉強になる。

私は活動4年目でやっと今月ハローワークに行くことができた。パートに行ってみようと思うがまだ見つかっていない。仕事のことを考えて具合が悪くなり、薬も増えて自分でも大丈夫なのかわからないが、自分にできそうな仕事をゆっくり探そうと思っている。

この数年親の会や医師、カウンセラー、家族、仲間の支えがあった。活動することでさまざまな体験をすることができた。これからも私自身成長していけたらと思う。

今後もよろしくをお願いします。

体験者 Hさん

徳島から来たHです。サポートステーションの話聞いて充実ぶりがすごいと思った。自分自身年齢が年齢だけに外で働くことを真剣に考える時期だと思う。**サポートステーションの話聞いて今後の就労を考えるきっかけになった。**

「ひきこもり地域支援センター」(仮称)設置に関するアンケート実施 9/21 例会当日

・アンケート実施の経緯

去る9月19日午後2時より、標記支援センター(平成21年度概算要求新規事業)を設置するにあたり、県健康福祉部障害福祉課会議室において、同障害福祉課 川田課長、田尾副課長、川東課長補佐の三役と川井が意見交換の機会を得、オリーブの会の設立から現在までの活動状況、会員と当事者の高齢化の現状、全く家から出られない子、長期に渉るひきこもりから神経症などを抱えている子、家族とコミュニケーションがとれない子、働きたくても働けない、働くところがない子など、百人百様それぞれの状態に添った対応が必要であることをお話させていただきました。

また、一括りの自立支援、就労支援目的の若者自立塾や若者サポートステーションがいくら出来ても、ひきこもりの子は、その場所へ出て行ける子が少ないこと、そこでも一人々に添った支援が必要なこと、今回の設置予定の支援センターもお役所的でなく土、日も相談出来ること、相談窓口は、ただの資格取得者が座るのではなく、ひきこもりを理解して本当に寄り添うことのできる相談者であることなどの意見を申し上げました。

川田課長のお話では「今回設置予定（まだこれから準備の段階ですが）センターはそのようなセンターではなく、**相談窓口、関係機関の連携、情報発信**の三点に特化したセンターなのです。」とのこと。そして「**選択肢の一つに、オリーブの会がこの支援センターの事業の委託を受けるというのもあると思いますよ。**」と言われ、一瞬ですが私も「受け入れてもいいのでは！」との気持ちが過ぎりました。でも一方では、この事業の委託を受けることは現状では人材不足で難しいことは分かっていたので、相談者として入れて欲しい、また事業の一つをオリーブの会に任せて欲しい、連絡協議会などのメンバーにも加えて欲しい、等々の希望をお話しました。

「センターを設置するとしたら資料のライフステージの図の関係機関のなかでは、一番行きやすいのは？また、行きやすい条件は？」など質問を受けました。

そこで21日の例会時に、「**会員の皆さんはどのようなセンターを望んでいるのか？**」意見をお聞きした上で参考までに障害福祉課へ結果報告をお持ちしようと、急遽アンケート調査を実施致した次第です。

親子とも高齢化が進んでいる私たちが公的支援の制度化を訴えてきて、やっと単独のひきこもり支援が活字になったのですから、一歩前進であり、今後センターは三点特化のみならず、本当の意味での多様な支援が受けられるようなセンターに発展していかなければならないと思っています。

以上